

江戸川区陸上競技場（通称『スピアーズえどりくフィールド』）の改修計画及び新
陸上競技場整備計画に関する陳情

（文教委員会付託）

受 理 番 号 第 1 1 7 号

受理年月日 令和 8 年 9 月 1 5 日

付託年月日 令和 8 年 9 月 3 0 日

陳 情 者 ・ ・ ・ ・ ・
 ・ ・ ・ ・ ・

陳 情 原 文 江戸川区が「公共施設整備事業」として 2 0 2 5（令和 7）年 9 月
に公表した計画内容は以下のとおりでした。

- ① 『えどりく』を球技場に改修する。
- ② 客席数を、現在の合計約 7, 0 0 0 席から 1 5, 0 0 0 席以上へと拡大する。
- ③ 陸上機能は、葛西南部地域へ「共生型陸上競技場」として、新設・整備する。

この発表は、私たち陸上競技者にとって、あまりに突然のことでした。区内は
もちろん、区外からも多くの利用者が訪れる施設であるため、関係者や他地域の
利用者からも、「今後の利用はどうなるのか」と、多くの不安や質問が寄せられ
ています。同時に、メディア報道等では、ラグビー場整備などに触れた情報が相
次いで流れる一方、新設される陸上競技場に関する具体的な情報は、示されては
いません。

利用の実態を見ても、貸切利用では、ラグビー約 8 5, 0 0 0 人、サッカー約
2 7, 9 0 0 人、アメフト約 1 2, 5 0 0 人、ラクロス約 7, 8 0 0 人であるの
に対し、陸上競技は個人利用が約 4 8, 0 0 0 人、貸切利用が約 1 3 6, 0 0 0
人と、群を抜いて多くなっています。この数字からも明らかなおおり、『えどり
く』は、区内外の多くの方に愛される、まさに江戸川区にある「陸上競技の聖地」
と言えます。

こうした背景から、私たちの中には、数々の疑問や懸念が生じています。

- ・ 現在の陸上競技場をそのまま残し、別の場所に球技場を新設することはできな
いのか。
- ・ 建築資材の高騰や人手不足により、学校改築や新庁舎建設の見直しが迫られて
いる中で、『えどりく』の改修と新陸上競技場の整備という 2 つのプロジェクト
を同時に進めることが本当に可能なのか。万が一計画が行き詰まった際、陸
上競技場の新設が後回しにされたり、立ち消えになったりすることはないのか。
- ・ 1 5, 0 0 0 席規模の大型観客席となった場合、騒音や交通混雑などの周辺環
境への影響は、どうなるのか。
- ・ 他種目との共生にあたり、激しいプレーによる芝の傷みや休養期間の設定など
は、どのように考えるのか。

（裏面に続く）

本音を申し上げれば、『えどりく』をこのまま陸上競技場として残してほしいという強い思いはあります。しかし、江戸川区が数十年先を見据えて下した決断であるならば、私たちは陸上競技者のみならず、すべての球技、すべてのスポーツに励む人々が、安心して取り組める環境づくりを目指そうと考えました。

そのために、これまで愛してきた『えどりく』が、今後も多くの区民から愛される施設として、存続・発展できるよう、現『えどりく』及び新陸上競技場に対する要望を、陳情書として提出いたします。

記

1 新陸上競技場完成まで、「利用の空白期間」をつくらないこと

整備工事に伴い、練習や大会を行えない「空白期間」が生じることがないよう、葛西南部の新陸上競技場が完成し利用可能になるまでは、現在の『えどりく』での陸上利用機会を確実に確保すること。

2 新球技場にもトラックを残すこと

現『えどりく』の平日は、主に陸上競技者が利用している実態がある。完全な球技専用場とした場合、平日利用が減少して施設の維持管理費等にも影響が出るのが懸念される。平日も含め陸上・球技の双方が活用できるよう、トラックを残すこと。

3 現在の『えどりく』の「三種公認」を、途切れず継続すること

日本陸連の公認規格は5年ごとの継続検定が必要であり、今回は2028年12月に予定されている。新陸上競技場が完成するまでの間、現在の『えどりく』の三種公認が、剥奪・途絶えることがないように、更新手続き及び整備を行うこと。

4 周辺住民の平穏な暮らしを守る、厳格なルールづくりと対策を講じること

15,000人規模の大型スタジアム化に伴う「騒音・ごみ・違法駐車・交通混雑」などにより、周辺住民の生活環境が脅かされないよう、防音対策をはじめとした厳格な運営ルールや具体的対策を講じること。

5 新陸上競技場の機能については、子どもたちを含む利用者とともに作りあげること

新しく整備される共生型陸上競技場については、観客席数や公認ランク（何種公認とするか）、風向きに配慮した競技場の配置計画など、当事者である、子どもたちを含む陸上競技者の声を聞き、ともに良い施設をつくりあげること。